令　和　５　年　９　月　１　日
今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会（第７回）
資　　料　　３

今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会

学習指導要領の実現をめぐる
教育委員会や学校の諸課題について

令和５年９月１日（金）

戸田市教育委員会
教育長　戸ヶ﨑　勤

「学習指導要領の趣旨の実現」の見届けと教育条件の整備の重要性

○今の学習指導要領の前文と総則は大変良くできている。「社会に開かれた教育課程」「教科等横断的な視点を重視したカリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」などの優れたコンセプトを「絵に描いた餅」に終わらせるのではなく着実に定着させていくことが肝要。前文や総則は大きく変えずに定着をねらう。

○今後の学習指導要領を教室に届けるための大きな課題は、前文や第１章総則の世界を、第２章の各教科等の指導にしっかりとつなげ、「教師主導の授業」から「子供主体の授業」へ、「教科書を教えこむ授業」から「教科書で子供の力を引き出す授業」へと授業の転換を図ることが大切。

○学習指導要領を見直すならば、それを支える教育条件を見直すことも大切。例えば、教科書も学習指導要領が目指す資質・能力の育成を強力にアシストし、教科書「で」教えざるを得ないようなものに進化させることはできないか。

継往開来の精神でスクラップ＆ビルドを

○過度に「みんなで同じことを、同じペースで、同じようなやり方で」教育していることが「落ちこぼれ・吹きこぼれ」を生み出し、「一律・一斉・一方向型の教育」から脱して、**子供たち一人一人の興味・関心や能力等に応じて、場所、進度、時間割、教材等の個別化を積極的に進めることが重要。この具体策の議論も急務。**その際、教えるべきはしっかり教え、考えさせるべきはじっくり考えさせたり、資質・能力をバランスよく育成したり、教科等を学ぶ本質的な意義を学んだり、と評価の高い「日本型教育」のお家芸にも、改めて光を当ててアップデートしていくことも大切。

基礎自治体の教育委員会や学校が抱える諸課題

○教育委員会においても過疎化等の影響があり、職員数が10人以下の教育委員会は全体の約3割、指導主事が配置されていない教育委員会は約2割に及ぶ厳しい実態がある。

○授業支援より多様な対応に迫られる教育委員会（いじめ、不登校、様々な苦情対応）

○人材確保と働き方改革 … 優秀な指導主事や教職員の確保、教師の若年化と質の低下？（指導力の低下）→ペーパーティーチャーや非常勤の活用

○「深い教材研究」による「質の高い授業」に取り組もうという意識の低下。やりがいと勤務時間縮減の両立。学び続ける存在であるための探究心の向上。

○授業準備の効率化、例えば、授業準備をチームで支えること、補助教材としてのデジタル動画などの積極的活用、優れた学習指導案の蓄積や共有化、などが進まない

○教師としての自律性と創造性を発揮して自ら思案するより先に、授業書やコンテンツ等、安易に外部に答えを求める傾向

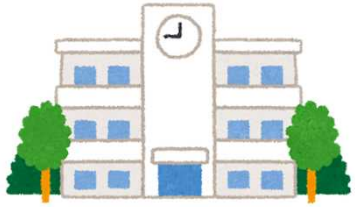
○教育予算の確保…教材や学習支援資源の不足

教育委員会としての決意

戸田市教育委員会

令和の日本型学校教育の構築を目指して

支援



学 校

今後さらに検討を要する事項（中教審答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」P.92）

○**校長を中心に学校組織のマネジメント力の強化**が図られ、自主的・自立的な取組を進める学校を積極的に支援し、**社会の変化に素早く的確に対応するための教育委員会の在り方**～略～社会との連携等を含む教育行政の推進体制の在り方

○**多様な人財を得て機能を最大化し、社会に開かれた教育行政を実現する**

○**定数を増やすのは厳しいので、教育委員会事務局組織の戦略的人事配置**

○**教育委員会と学校との距離感の縮小（管理から支援へ）**

○**本当に大切な教育改革は、国や教育委員会からではなく、学校現場から起こるべきである。そのために、教育委員会のマネジメントを「一律の管理」から「個別の支援」にシフトし、教育委員会は、「学校に伴走し、積極的な自走を支援し、逸走や暴走を軌道修正する」ところでなければならない。**

啐啄同時の教育委員会

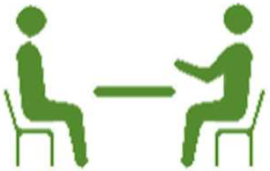
教育委員会改革の３ステージ

◎教育委員会が**ビジョン提示**
◎**新たな施策**の創造
〇**教育委員会が原材料・人財の用意から料理まで**行う

ステージ１（独走）

▲**一部のリーダー**が目立つ（多くの関係者にとって**他人事**）
▲**現場の姿は見えない**（沈黙か抵抗）
▲学びの**変革はまだ「点」**（**施策と実践のギャップ**）
▲先進校はごくごく一部のみ

◎教育委員会が**学校に伴走支援**
〇施策の**トライ＆アプローチ**
〇**教育委員会が原材料・人財を用意**し、**料理は学校**で



ステージ２（伴走）

〇市役所や職員室で**ビジョンに共感する者**が出始める
〇**現場の姿**が見え始める
〇学びの変革が**「点」から「線」**になる（**持続可能性には課題**）
▲先進校はまだ一部

〇教育委員会の役割は、**「逸走や暴走を軌道修正する」**ことにフォーカス
〇時には**学校が原材料・人財の用意から行う**ことも

ステージ３（自走）

◎ビジョンが**自分事として関係者に腹落ち・浸透**
◎**現場が目立つ**ようになる
◎学びの変革が**「線」から「面」**になり、**人事異動に依存しない持続可能**なものに
〇**市内全校が先進校**に

現場の自走を支える戸田市教育委員会の取組例

○「戸田市版学校経営ルーブリック」の作成
学校経営の実践において参照すべき視点（物差し・レンズ）を提示し、日々の実践の振り返り・改善に活用

○校内研修・校内研究改革
形式的な研究委嘱はやめ、**全小中学校が研究指定校**となり、**子供の変容を大切にしながら「全員」と「共有」をキーワード**に研究

○教科教育深化プラン
アクティブラーニング指導用ルーブリックの提供やRSTの活用などを通じた**共通的な基盤となる授業づくりの視点の浸透、教師間の学び合いの場の提供、教育委員会サポートの充実**

全ての教育委員会の学校支援体制の強化に向けて

「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けて（抜粋）

令和5年7月19日「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けた調査研究協力者会議

小規模自治体への対応、広域行政の推進のための方策

現状と課題

○**少子高齢化や過疎化の影響**により、**学校数や児童生徒数は減少**、**職員数10人以下の教育委員会は全体の約3割**、**指導主事未配置の教育委員会は約２割**に。

○小規模自治体は必ずしも十分な体制が構築されていない中で**様々な課題への対応**が必要 ➡ **都道府県の支援**とともに広域連携を含めた**各自治体のより一層の取組が必要**。

必要な方策

【市町村を支える都道府県の役割】

・広域自治体として、域内の**市町村教委が抱える課題の解決**や**教育の更なる充実**に向けて**適切な支援を行う**こと

（静岡県教育委員会【域内の市町村教育委員会の連携に向けた支援】）

・教育事務所の体制について、**小規模市町村への最適な支援を行う**観点から、**適時適切に見直し**を行っていくこと

（佐賀県教育委員会、山口県教育委員会、和歌山県教育委員会【教育事務所の再編等】）

【広域連携等の促進】

・**広域連携に係る各制度**の更なる活用を促すための**各制度の特徴や留意点等の整理・周知**

・**自治体間連携**に係る取組について、**事例の把握創出・横展開を含めた積極的な支援**

（大分県玖珠町・九重町【協議会の設置を通じた事務の共同実施】、岐阜県岐南町・笠松町【教育委員会の共同設置】）

【地方教育行政を担う人材の確保】

・小規模自治体における体制整備の観点から、近隣自治体と連携して**指導主事を共同設置**することや、**校長経験者等をアドバイザー等として任用**すること

・特に小規模自治体を対象に**オンラインによる情報交換やネットワークづくりの場の設置**を通じた、**指導主事の資質・能力の向上**や**連携の促進**【再掲】

【デジタル技術の活用等】

・近隣市町村との教員研修の合同実施や学校事務の共同実施、指導主事の授業参観に係る講評や授業検討会を行う場合等の**オンライン会議システム等の活用**

変化する社会の動きを教室に 教師等のマインドセットの問い直し

○産官学の多くの方から共通して指摘されるのは、

- 教育村、学校村での学びは社会と繋がっておらず、学校で習っていない問題になると途端に解けなくなってしまう傾向にある。
- 学校だけでなく教育委員会も、地域や企業など外部人材に口出しされることをあまり歓迎しない文化がまだ全国的に根強い。
- 学びは学校の中だけでは完結しない、ということを教師が理解していないのではないか、など。
- 教師の数を増やすことも大切だが、変化する社会の動きを教室の中に取り入れる「進取の精神」をもって仕事をする教師集団をつくることも大切であり、 こうした方策も議論が必要。
- 社会に開かれた教育課程の実装に向けて、自前主義・教師主導の授業作りから脱却し、外部資金獲得などを通じて様々な外部機関と連携した教育課程の実施を持続可能な形で実現できるよう支援していくことも重要。

未来の学びの実現に向けたクラウドファンディングについて

「**戸田市から日本の教育を変える**」をコンセプトに、**これまでの教育・学校の「当たり前」を問い直す**、学校主体の夢のある学校改革や教育委員会による産官学民連携の下での教育改革を通じた**未来の学びの実現に向け**、**ふるさと納税を活用したクラウドファンディング**を実施。
確保した資金は、一般の寄付金と併せて、**戸田市未来の学び応援基金へ積立て**。

実 施 期 間

令和4年10月から令和5年3月まで

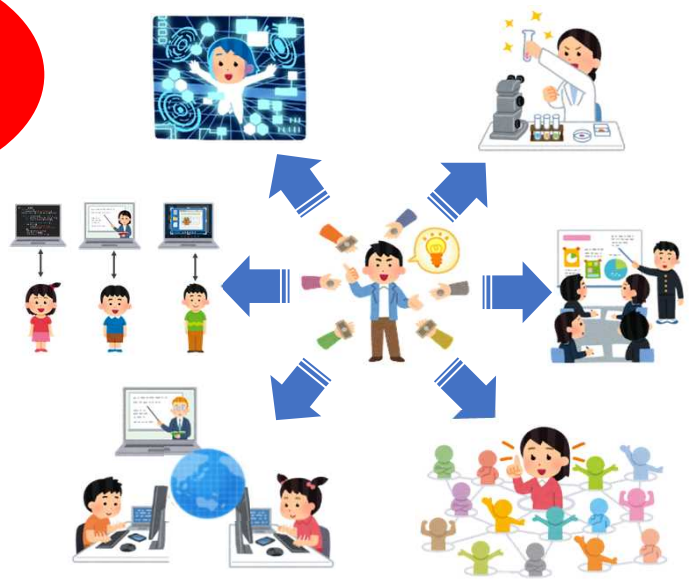
目標額 500万円 達成！

対 象 テ ー マ

PBL（課題解決型学習）、部活動の地域移行、デジタルの活用、自然体験、インクルーシブ教育　など

寄付者への還元

ホームページ等を通じて事業成果報告（高額寄付者は別途検討）



脱・自前主義

脱・教師主導

脱・正解主義

脱・予定調和

脱・３Ｋ
（経験と勘と気合い）

各プロジェクトの内容及び配分額について

提案主体	タイトル	内容	配分額
戸一小	PBLで子供たちの「やってみたい！」を叶えたい	戸田市の魅力をまとめた本の製作や野菜の栽培、企業と連携した木製品の開発など、**各学年でPBLを実施する経費**	
戸二小	戸二小メタバース美術館「Ｔ２－Museum」の設立	**メタバースプラットフォームの構築**やVRゴーグル等物品調達費	
新曽小	創るために壊す	新しい「学校の当たり前」づくりのための**先進校の視察**や**教員研修**等の実施に係る経費	
笹目小	自然体験を核とした学校づくり	**飼育小屋**、**学校ファーム**の整備及び動植物の世話・管理・収穫に向けた**専門家のサポート**に係る経費	
戸田東小	「新たな学びのカタチ」を子どもとともに	「子ども」と「地域」、「NPO」、「企業」等が主体的に**マッチングできるプラットフォームの構築**等に係る経費	
戸田南小	全教育活動におけるインクルーシブ教育の推進	子供たちが、チームワークや自尊感情、他者理解などを学ぶための**体験プログラム**の実施等に係る経費	
笹目東小	動物とふれあえる夢あふれる飼育小屋をつくろうプロジェクト	動物とふれあえる夢あふれる**飼育小屋**の建設や**動物ふれあいスペース**の整備等に係る経費	
美女木小	“大人”と”子供”が共に輝く学校づくり	”対話”を通じた失敗を恐れず挑戦できる教師間の関係性の構築するための**NPOコンサルティング**経費と、子供たちに多様な学びのチャンネルを提供するため、**様々な外部人材の招聘**に係る経費	
芦原小	インクルーシブな学校をめざして！～全ての子供たちにとって居場所となる学校に～	**教職員研修**の充実、**専門家等による巡回相談**や**アドバイザー**の実施及び特別支援教育の視点も踏まえた芦原小版**オリジナルぱれっとルーム**にするための整備に係る経費	
戸田市立中学校	Toda T･F･Cで戸田市の小中学生に陸上競技の楽しさを！	総合型地域スポーツクラブへの移行も視野に、**準備委員会**の設置や**運営母体**の設立、**指導者の確保**等に係る経費	
教育委員会	匠の技の可視化	優れた教職員の指導技術の伝承や普及のため、**授業中の子供達の発話と指導との関係を可視化・定量化**しより深く詳細に分析するための経費	
		合計額	円

※配分額は令和４年９月補正と令和５年３月補正で積立てた分を合算して算出

参考資料：
学校経営・授業改善に向けた
戸田市教育委員会の具体的な取組

戸田市の教育改革のコンセプト 脚下照顧から

AIでの代替は難しい力などの育成

AIでは代替できない能力の育成と、**AIを活用できる能力**

生成AIの光（相談的活用）と影

21世紀型スキル、**汎用的**スキル、**非認知的（社会情緒的）**スキルを育成

産官学と連携した知のリソースの活用

産官学と連携した知のリソースの活用。それも、**ファーストペンギン**を目指すことで、**安価で効率的に、最先端の質の高い教育**が提供されるはず

「経験と勘と気合い（3K）」から「客観的な根拠」への船出

教育の**EBPM**の重要性の認識（**量的と質的エビデンス**）

→ **episode-based**　から **evidence-based** へ

→ **evidence-based** から **evidence-informed** へ

→ EBPMから**EIPP**（Evidence Informed Policy and Practice）へ

授業や生徒指導等を科学する

●教育の現場は**科学的**であるべき　**science based** へ

●**優れた教師の経験や勘、匠の指導技術を、言語化・可視化・定量化**するなど、**暗黙知を共有化**したり**形式知へ転換**したりして、若手が**再現**できるよう、**効率的・効果的に伝承**していくべき。そのために**教育データを積極的に利活用**していくべきである

教育村、学校村の意識改革（コンセプトの学校への浸透）

（１）生徒指導と学級経営の充実

○生徒指導の王道は学力向上にあり　○学力向上は学級経営と授業の充実にあり

（２）校長のリーダーシップの発揮

○校長が「**代（変）**われば」学校が**変**わる　○**学校間ピアレビュー**で成果と課題の共有化を
○挫折回復（resilience）能力　○識**時務**者在俊傑

（３）授業改善に向けて

○**「授業改善日」や「授業改善の時間」の計画的な設定**
○素人の目から見てもわかる授業改善を → **ICT機器活用が最も効果的**
○例外を出さない授業改善　○教師自身がパッシブラーナーからアクティブラーナーへ

（４）社会に開かれた教育課程と学び合う職員室に

○**変化する社会の動きを教室の中に入れる**ため、産官学と連携した様々な学びや人財等の原材料を教育委員会で用意していく。授業改善、校内研修、研究発表などで躊躇なくフル活用してほしい

○社会構造の変化を各学校で共通認識し、目の前の子供たちの実態を踏まえ、どのような力を育てるか、**学年や教科を横断して根本にさかのぼった議論を**

児童生徒の出ていく社会を知ろうとしないのは極めて不誠実

学校という学びの場を子供たちが未来を感じられる空間に

リスクを恐れることこそ最大のリスク
凡庸な90点の取組よりも、60点でも夢のある挑戦を

新たな学び（次期学習指導要領）と働き方改革 H28.12

新たな学び（次期学習指導要領）は、「働き方改革」なしでは実現できない

○業務や教育活動などを、見直して精選する期間が、新学習指導要領の移行期間

○次期学習指導要領に向けた「準備」と教師の「働き方改革」は**同時進行**で進める

新たな学びに向けた授業改善を業務改善のトリガーに

○「働き方改革」ができなければ、新学習指導要領の求める「授業改善」はできない

○「働き方改革」の絶好のチャンスだか、「働き方改革」が失敗すれば、新たな学びも次期学習指導要領の実現も難しくなる

○子供たちの健やかな育ちを真剣に考えればこそ、**「働き方改革」を最優先に**

産官学との連携について

○産官学と連携することでどのようなよさがあるかを理解することから
①最先端の知のリソースを教室に入れられる
②働き方改革に直結する（アウトソーシング）

○「外部機関と連携すると教職員の業務に負担感が増す」との意見をよく聞くが、全く負担がないということはなく、何事も変革をしようとする際には、一定の負担感を感じる。

○教職員が負担と感じるのは、各種調査や保護者対応、慣例的な行事、即効性の期待できない（what to 型）研修などであり、子供を育むための本来業務であれば、負担を感じても教職員が「やるべきこと」と感じるはず。

○産官学と連携することで、プログラミング教育のコーディングをはじめ、教師がやらなくてもよい作業は、協力依頼などができ、効率性があがることも多々ある。

○これまで自前主義の慣例で続けている教育活動は、「子供を主語とした教育の推進のため」にという目的に達成に向けて、産官学との連携のメガネを通して見つめ直すことは、ボトムアップ的にこれまでの教育活動を見直すチャンスになる。そのような成功体験が、自校のカリキュラムマネジメントの自走につながるなど、産官学との連携いう新しい風を職員室に吹き込むことにより、学校改革のトリガーになる可能性がある。

学校間格差問題について

○学校長が、自校の強み、弱み、地域の実態に応じ、何を大切にするかなどによって学校経営や運営が変わるのは当然である。

○トップのマインドセットが何より肝要なのは言うまでもない。

○①目の前にいる子供たちが出て行く社会の風景画が描けている、②変化する社会の動きを教室の中に入れる努力をしている、③どのような力を育てるかを学年や教科を横断して議論する学び合う職員室をつくっている、の３点にさえ努めていれば、そのアプローチの仕方やスピード感の違いは学校長を信頼し任せることも大切である。

○また、管理職が教職員に敢えて弱みを見せることにより、教職員同士が互いの悩みを打ち明けられやすくなる「心理的安全性」が醸成され、教師同士が学び合える学校組織を作っていくことも重要である。

○市校長会の「ピアレビュー」においても、賢さアピール、手柄話、成功談は極力少なくし、失敗や苦い経験、ヒヤリハットなどを多くして学び合ってもらっている。このような取組を通して、教職員が学校経営に参画し、産官学と連携した自走する教職員集団が形成できると考える。

○インサイト（人を動かす隠れた心理）を刺激する。→学校間格差にも
×「そんなのしってるし、やってるよ」　×「そこだからできるんだ」
「納得感（そういえばそうだ）」を腹落ちさせること

戸田市版学校経営ルーブリック（第１版）について

○**学校経営の実践において参照すべき視点（物差し･レンズ）**である「戸田市版学校経営ルーブリック」の第１版を、校長等ヒアリングでの意見を基に作成、市内全校と議論し修正を経たものとして、以下のとおり定める。

○本ルーブリックは、令和５年度の学校訪問や研修等の機会を捉えて、**学校管理職や学校組織全体として日々の実践を振り返り、改善するために試行的に活用**し、そこでの成果や課題等を踏まえて更なる改善を図る。

1 ビジョナリーとしての管理職

- ✓ 子供の姿を含めた学校経営のビジョンを明文化し、自分の言葉で語り、状況の変化に応じて見直しているか。
- ✓ 日々の教育活動の中で、ビジョンが共通言語として教職員や子供に参照される仕組みを意図的に作っているか。
- ✓ ビジョンに相反する事象を、データも使いながら特定し、課題を踏まえて定期的に改善に繋げているか。

2 カリキュラム・デザイナーを束ねる管理職

- ✓ ビジョンを反映した教育課程の編成に加え、その実現に向け産官学や地域の資源を積極的に活用しているか。
- ✓ 主体的・対話的で深い学びやICTのマストアイテム化の全校的な実現に向けた具体的な仕掛けを作っているか。
- ✓ 校内研修等を通じて、授業を軸とした同僚性の構築や教科・学年等の縦割りを超えた知の共有を図っているか。

3 マネージャーとしての管理職

- ✓ ビジョンを実現するため、個々の教職員が相乗効果として力を発揮できる学校組織を柔軟に構築しているか。
- ✓ 教職員の負担の平準化や業務改革など働き方改革により、子供と向き合う質の高い時間の確保に繋げているか。
- ✓ 小さなSOSを見逃さず未然防止を図るとともに、危機管理の場面では迅速かつ的確な意思決定をしているか。

4 ファシリテーターとしての管理職

- ✓ 教室等で起きている課題を自ら直視し、学びの状況や指導についてのフィードバックを教職員に行っているか。
- ✓ 教職員の個々の状況に応じ、対話と奨励など成長のためのサポートを適切なタイミングで提供しているか。
- ✓ 自分にしか出来ない付加価値の創出と、自分が異動しても続く持続可能性の確保のバランスを図っているか。

5 バッファーとしての管理職

- ✓ 積極的な情報発信や家庭・地域の声への傾聴に加え、学校運営に巻き込む仕掛けを意図的に作っているか。
- ✓ 国や教育委員会の施策の動向にアンテナを張り、必要に応じて学校経営や日々の教育活動に反映しているか。
- ✓ 学び続けることを通じて、自己を客観視・アップデートするとともに学校経営を多角的な視点から見ているか。

教師の学びに関する諸課題

・スマートで軽い授業が多くなっている「教科書で」ではなく「教科書を」教える教師のもとでは、日常知や生活学力は育成されにくい。主たる教材である教科書を生かし、教材に息を吹き込んでいくのは教師の大切な仕事の一つである、という認識が欠けている。

・教師の「主体的・対話的で深い学び」の場が少なくなってしまったことも原因。「分数の割り算はなぜ逆数をかければよいのか」、「なぜマイナスとマイナスをかけるとプラスになるのか」などの見方・考え方の激論を交わす教材研究の対外試合もほとんどなくなってしまった。

教育長と初任者とで語る会

校内研修・校内研究の改革

○校内研修のさらなる活性化

・教師の専門家としての成長と校内の同僚性の構築
・互いに学び合う教師集団の文化を醸成する
・一人一人の教師の指導のよさや「匠の技」を共有する
・主体的・対話的で深い学び（個別最適な学びと協働的な学び）の創造

○形式的な校内研究（委嘱研究）からの脱却

・市内全小・中学校が研究指定
・オンライン研究発表会
・中学校区小中４校連携共同研究「合同研究発表会」

○研究委嘱のキーワードは「全員」と「共有」

・一人一役、プロモーターになって提案
・子供や学校が変わりつつある変化を共有することが大切
・教師は研究者ではなく教育のプラクティショナー
→「研究の成果は研究物ではなく子供の変容にあり」

教科教育深化プラン

・PBLが各校において推進されている今こそ、**SEEPプロジェクトの原点である「Subject（教科教育）」を深化**させ、それらを車の両輪として子供達の学びを充実していく必要。
・そのために、**教師間の同僚性**を高めつつ、共通的な基盤である**授業づくりの視点**と、教科の学びに夢中になるような、各教科固有の**「見方・考え方」を働かせる視点**の双方を強化していく。

★文科省「教員研修高度化モデル事業」を活用

３本の矢からなる「教科教育深化プラン」

①共通的な基盤である授業づくりの視点の浸透

- **「アクティブラーニング指導用ルーブリック」の更なる改善**
- **RST（リーディング・スキル・テスト）の視点**と、ユニバーサルデザインやICTの視点も組み合わせた、子供達のつまづきに対応した授業改善を**全校で実施**
- **「学級経営ルーブリック」（仮称）**の策定検討

②教師間の学び合いの場の拡充

- 各中学校区で小中の教師が**お互いに授業を見合う機会**を促進
- 夏季専門研修で、指導主事が**教科指導の悩み**を教師から聞いたり、**教科の魅力**を熱く語る機会を設定（**選択必修参加**）
- ★教科等研究部会での大学等から**講師を呼んでの授業研究**を支援
- ★**センター研究員制度**について、参加者の拡大と**運営の活性化**

③教育委員会によるサポート体制の充実

- 各教科の、**「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点を授業と紐付けて提示**
- ★モデル校４校における、**大学・民間と連携した校内研修・授業研究等の高度化**への支援
- ★**大学と連携した算数・数学、体育の研修の充実**
- **学校経営アドバイザー**による訪問の充実

子供達の学びと教師達の学びは「相似形」
教師にも「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を！

当面の取組の方向性

	現状・課題		当面の方向性
1	✓ 教師の経験と勘と気合い（3K）のみによる教育から脱却し、客観的な根拠に基づく教育に転換する必要。 ✓ 子供たちが主体的に自らの考えを外化したり、学びのプロセスを共有したりする中で、**子供も教師もリフレクションが深まる気付きを多く得る**ことが必要。	**授業を科学する**	➢ 引き続き、アクティブ・ラーニング（AL）指導用ルーブリック・戸田市版SAMRモデルの活用と児童の変容の見取りによる、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けたデータ駆動型の授業研究を推進**。 ➢ 全ての教師の指導改善に繋げられるよう、**多角的な視点からの匠の技の可視化やAL指導用ルーブリックの更なる改善**について取り組む。
2	✓ 様々な生徒指導上の課題は早期発見・早期対応が不可欠であるが、**教師や保護者などの気付きや観察だけでは限界がある。** ✓ 不登校が子供達の学力面・情意面にどのような影響を及ぼしているか、客観的に把握する必要。	**生徒指導を科学する**	➢ 教育総合データベースにより、子供達の**不登校等のSOSの早期発見・対応**を試行することで、**積極的な生徒指導を補強**。 ➢ 専門家による不登校対策ラボラトリー「ぱれっとラボ」において、本市の**不登校対策・支援に関する調査・研究・評価**を実施。
3	✓ 子供の社会経済的背景等の困難を考慮した学級・学校単位での学力等の伸び、**学校の理解度や信頼度などを可視化・定量化する必要**。 ✓ 教師にとってのAL指導用ルーブリックのような、学校管理職にとって学校経営を自己・他者評価するような視点が必要。	**学級・学校経営を科学する**	➢ 教育総合データベースの「学校カルテ」機能や学校訪問におけるデータの利活用等を通じて、**学級・学校経営を科学する取組を推進**。 ➢ アセスメント・ファシリテーション能力を含めた**学校経営の視点を示したルーブリックの作成について検討**。

指導用ルーブリックに基づく授業づくりのポイント
～エビデンスに基づくグッドプラクティスの紹介～

エビデンスに基づく授業改善の取組の一貫として、**埼玉県学力・学習状況調査**の結果及び**指導用ルーブリック**を活用して、児童生徒の学力を特に伸ばしている教師（36名）へのインタビューを行った。そして、インタビュー内容を基に、効果的な指導方法（**グッドプラクティス**）等についてまとめた。

子供の学力を特に伸ばしている教師への３つの質問内容

① 指導用ルーブリックで重視する項目について。
② 授業づくりについて、普段意識していることは何か。
③ 学級経営（学級づくり）について、普段意識していることは何か。

1　指導用ルーブリックで重視する項目（割合）※１人が２つ選択

視　点	1 目指すべき目標・評価規準の設定等	2 主に主体的な学びの視点	3 主に対話的な学びの視点	4 主に深い学びの視点	5 学びの評価・振り返り
回答者の割合	69%	44%	31%	17%	39%

指導用ルーブリックで重視する項目については、**「視点１　目指すべき目標・評価規準の設定等」**の回答が69%と最も高く、子供の学力を特に伸ばしている教師の約７割が回答した。このことから、ルーブリックの５つの視点の中でも、授業前に**本時の適切な目標**や**評価規準を設定**することや、**学習意欲を高められるような導入場面**を設定することは特に効果的であることがわかる。

アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの視点から、**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な５つの視点を**指導用ルーブリック**として示した。

視点１と視点５は、目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**と捉える。

1 児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。
【目指すべき目標・評価規準の設定等】

□指導計画に基づき、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できたか。
□本時の目標に正対する評価規準・評価方法が設定できたか。
□児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか。（学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など）

2 児童生徒が自分の考えを表現することができていたか。
【主に主体的な学びの視点】

□本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。
□自分の考えを表現することができるように、（主につまずいている児童生徒たちへの)支援方法を準備し、支援することができたか。
□自分の考えを表現することができるように、教具の工夫、適切な時間や場の設定等の準備ができたか。
□学習活動は、目標の実現につながっていたか。

3 児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。
【主に対話的な学びの視点】

□児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）は設定できたか。
□児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具（具体物・ＩＣＴ等）を工夫し用いていたか。
□目標の実現につながるように児童生徒の考えを可視化（板書・ＩＣＴ等）できたか。

4 児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。
【深い学びの視点】

□児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
□児童生徒が「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
□児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・ＩＣＴ等）できたか。

5 児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。
【学びの評価・振り返り】

□評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する（キャッチ＆レスポンスする）ことができたか。
□目標に準拠した指導と評価となるよう、学習の状況を適切に評価することができたか。
□児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか。

- 教材研究を充実させ、子供たちに**育成したい資質・能力を明確**にして、視点１や視点５を基に子供たちに提示することが大切である。**（コンテンツベースからコンピテンシーベースへ）**
  その上で、視点４に示す**各教科等の特質に応じた見方・考え方を子供たちが働かせる**ことができる学習活動を充実させていく必要がある。**（子供を主語にした学びの推進）**
- また、学習活動の充実には自分の考えを表現したり、他者と自分の考えを比べたりするなど、視点２、視点３が欠かせない。こうした授業改善の取組をとおして、**「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」**を推進していくことが必要である。
- 教材研究を進めるにあたり、学習指導要領解説編や関係資料等を参照し、本単元や本時の位置付けを確認することも、大切なことである。**（授業を「点」ではなく「線」「面」として捉える）**

R4学校訪問での達成状況

子供を主語にした学びの実現に向けた授業改善のポイント

エビデンスに基づくグッドプラクティスの視点から

子供の学力を伸ばした先生に共通する授業（目指したい授業像）

一人一人の子供を主語にした学びの実現

2 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現

指導・支援のポイント

- 全体場面や机間指導等を通した子供の学びの状況把握、適切な声かけ、考えの価値付けや評価。
- 個で考える時間や協働的に考える時間の意図的な設定。
- ＩＣＴを活用した個別最適な学び（ＡＩドリル学習、音声教材や学習者用デジタル教科書等の活用）や、協働的な学び（学び合いや意見交換、考えの共有等）の推進。
- 戸田市版ＳＡＭＲモデル「Ｍ」段階の活用。

1 基盤となる教育環境

学習活動の土台となる学年・学級経営

指導・支援のポイント

- Ｄ＆Ｉ[※1]を学年・学級の中で実現し、一人一人が受け入れられ、安心して学ぶことができる学級づくり。
- ユニバーサルデザインの視点に沿った授業づくりや教室環境づくり。[※2]

※1：Ｄ＆Ｉ（ダイバーシティ＆インクルージョン：受容性と包摂性）
※2：参考／平成29年度授業の重点・主な成果21「授業のユニバーサルデザインに5つのチェックポイント」

子供が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせる学習活動の推進

指導・支援のポイント

- 子供に育成したい資質・能力、働かせたい見方・考え方を明確にする。
- 授業を単元や題材のまとまりで構想。
- 単元や本時の学びの明確なゴール設定の提示。
- 課題とまとめの正対。（指導と評価の一体化）

RST（リーディングスキルテスト）を活用した授業改善の視点から

主体的・対話的で深い学びの実現に向けては、**児童生徒の汎用的読解力を育成していくことが重要**となります。
RSTを活用した以下の3つの視点から授業改善を進めましょう。

視点１ 児童生徒の実態把握

RSTで示される6観点
①係り受け解析　②照応解決
③同義文判定　④推論
⑤イメージ同定　⑥具体例同定

RST能力値：小６～社会人での比較
RST偏差値：同じ校種での比較

RSTは観点ごとに左の２種類の値によって、結果が示される。各児童生徒の結果をもとに、**特に支援の必要な児童生徒の発見につなげたり、値の低い項目に基づく支援方法の検討や発問の仕方の工夫につなげたりする**ことで個別最適な学びへとつなげる。

視点2 児童生徒への指導・支援

STEP1 RSTの視点を生かした理解の深め方を児童生徒に指導する

○○の意味は～
つまずきそうな言葉の意味を説明

○○を他の言い方にできるかな？
言葉の言い換えを考えさせる

このグラフの根拠は教科書のどこに書いてあるかな？
グラフや図と文章を結び付ける

ＳＴＥＰ１として、**教師が教材研究の中で、児童生徒がつまずきそうな言葉を分析**し、左のような活動につなげます。言葉を正しく理解することを児童生徒に意識させることで、児童生徒自身でも主体的に意味を調べたり、言葉と言葉や言葉と図表などのつながりについて考えたりする習慣が身に付く。

STEP2 RSTの視点を生かした支援によって児童生徒の理解を深める

これまでの学習で関係しそうなところはあるかな？

Ａさんと Ｂさんの意見は同じかな？
違うところはないかな？
文章と照らし合わせると、どれが当てはまるかな？書き理由は？

ＳＴＥＰ２として、対話的な学びの中で、既習事項から予想する「推論」や定義や学習内容の具体例を考える「具体例同定」、二つのものが同じ意味か考える「同義文判定」といった視点から考える機会を設ける。**誤った理解や理解が不足している点がないか児童生徒自身で考え、気付くことで、理解が深まる。**

視点3 児童生徒の振り返り等を分析

児童生徒が既習事項を正しく言葉で表現できているかを確認。状況に応じて、授業で補足したり、考えさせる機会を設ける。

「よく分かりました。」「がんばりました。」「すごいと思いました。」だけの振り返りにならないように、**児童生徒が具体的な数値や文章、理由を明らかにしながら、振り返りを行うようにする。教師は振り返りを分析し、児童生徒の学習状況を把握し、次回の授業につなげる。**

グッドプラクティス R2～R4　R2　R3　R4
教育のための科学研究所HP
RSTの視点に基づく授業改善１～４　R1　R2　R3　R4
Point

戸田市教育委員会HPよりダウンロード可

Thank you for listening.

note　経験と勘と気合いのみの教育から脱却し、授業や生徒指導等を科学することで、誰一人取り残されな…
戸田市教育委員会note

キーワードや作者名で検索　ログイン　会員登録

note開設　―先進的な教育改革を、更なるステージに。―

戸田市教育委員会教育長の戸ヶ崎勤です。このたび、**全国でも先進的とされる本市の挑戦についてより多くの方々に理解していただき、教育改革を更なるステージに到達させることを目的に、noteを開設することとしました！**定期的に更新していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

戸田市教育委員会教育長　戸ヶ崎勤

さて、７月２０日に、戸田市教育政策シンクタンクアドバイザリーボードをオンラインで開催しました。このアドバイザリーボードは、おそらく**市町村としては全国初の取組として令和元年に設置した、優れた教師の匠の技の言語化・可視化・定量化や個別最適な学びの実現、EBPM（EIPP）の推進に取り組む「教育政策シンクタンク」**が行う調査研究等の方向性に対する指導及び助言を行うため、教育長が設置するものです。

5

note　**戸田市教育委員会公式 note**

facebook　**戸田市教育委員会公式**

戸ヶ崎 勤

戸ヶ崎個人のfacebook
戸田市の教育の取組を中心に毎日投稿しています。友達申請して御高覧ください。